

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校
 「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
 めざす学校像を4つのキーワードで示す。
 「鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
 「極める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
 「繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
 「描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

- 1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する
 - (1) 計画的に学力向上に取り組むスキームと、生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの確立。
 - A** 「振り返りシート」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。
 - B** 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 43%→H31: 80%)
 学力生活実態調査・全国模試等における学力レベルの維持。(各学年入学時のレベルを維持する)
 - (2) 授業改善
 - C** アクティブラーニングの推進による読解力・思考力・表現力の育成。
 - D** 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部者への授業公開。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(すべての項目で各年度とも前年度より3%ずつ毎年向上)
 - (3) 組織的課外講習・補習の実施
 - E** 各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習の更なる充実。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 85%→85%超維持)
 - (4) 自学自習力の育成と自習環境整備
 - F** 学習室の整備と生徒への自習室活用方法の周知徹底。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 77%→H31: 80%)
- 2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす
 - (1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
 - G** 社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の拡大。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 86%→H31: 85%超維持)
 - (2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。
 - H** 入試問題・入試動向の研究と全国模試の分析。統合 ICT を活用した情報の共有化。
 - I** 進学指導能力向上のため、教員による模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
 【目標】生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 生徒 85、保護者 84%→H31: 85%超維持)
 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合 (H28: 35%→H31: 40%)
 - (3) 読書活動を推進し幅広い教養を育成する。
 - J** 朝読や授業での、学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 49%→H31: 70%)
- 3 人としての豊かな見識と情操を育てる
 - (1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の醸成。
 - K** 充実した部活動の持続と学習時間の保障。
 【目標】部活動参加率90%超を維持しながら基礎学力の向上をめざす。(学力生活実態調査における学力・学習平均レベルA3に)
 - L** 「自主的な学校行事」の促進。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 91%→90%超維持)
 - M** 清掃活動等、ボランティア活動の推進。
 【目標】「一部活動一社会奉仕運動」の実現。
 - (2) 生活指導や学校教育活動全般を通じた、豊かな人権感覚、望ましい生活態度、社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
 - N** 教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 74%→H31: 80%)
 - O** 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
 【目標】遅刻総数の減少 (H28: 1604回→H31: 1150回)、生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 88%→90%超維持)
 - P** 話をきちんと聞き、内容を理解した上で考えを的確に伝えることのできる力の育成。
 【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 65%→H31: 80%)
- 4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立
 - (1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。
 【目標】教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H28: 59%→H31: 80%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校の教育活動に対する肯定率の変化(現3年計画の前年度 H26 と今年度の比較)</p> <p>【保護者】 ①学校に対する意識 89%→92% (↑) ②学習指導 73%→80% (↑) ③生徒指導 86%→94% (↑) ④進路指導 78%→84% (↑) ⑤道徳人権 83%→93% (↑) ⑥情報提供 85%→83% (→) ⑦学校教育への参画 85%→91% (↑)</p> <p>【生徒】 ①学校に対する意識 85%→89% (↑) ②生徒指導 76%→82% (↑) ③進路指導 83%→79% (↓) ④教育相談 54%→66% (↑) ⑤道徳人権 69%→70% (→) ⑥特活行事 78%→91% (↑)</p> <p>【教職員】 ①学校組織 46%→63% (↑) ②教育活動の改善 62%→74% (↑) ③生徒指導 74%→68% (↓) ④進路指導 85%→91% (↑) ⑤教育相談 87%→83% (↓) ⑥特活行事 82%→91% (↑) ⑦情報提供 71%→75% (↑)</p> <p>※保護者・生徒・教職員ともに多くの項目で評価が向上した。しかし、依然とし</p>	<p>第1回 平成 29 年 6 月 26 日 (月) 平成 28・29 年度学校経営計画及び学校評価の内容に関して、進路実績上の課題(さらに実績を伸ばす、超難関校への合格者増など)の解決や高い志の育成、そのためにさらに情報提供に努めることなどに関してアドバイスをいただいた。</p> <p>第2回 平成 29 年 12 月 1 日 (金) 文化祭の来校保護者数の多さを評価していただいた。また、生徒からの評価が高い教員の授業を他の教員が学べるしくみや教員の評価と生徒の成績に相関について質問があったので、互見授業や研修に取り組んでいること、授業研究に努力している教員の評価は着実に変化していることを説明した。さらに国語力の育成、教科の枠を超えた資質能力の向上、成功する生徒の特長などについてご教示いただいた。</p> <p>第3回 平成 30 年 3 月 5 日 (月) 塾の依存度や学力層別の講習・補習の活用度の分析、高い志の育成、図書室に置く新聞、高い志やコミュニケーション力の育成、C&A にしっかりと取り組むこと</p>

府立泉陽高等学校

てPDCAサイクルの徹底や清掃活動、読書習慣、あいさつなど、評価が伸びていない項目の改善が課題。	に関してご教示いただいた。また次年度の協議会では高大接続についてご意見をいただくと提起いただいた。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する	(1) 学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの確立	(1) A 「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。 B 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。	AB 生徒向け自己診断「振り返りシートをきちんと活用している」前年度43%を60%に。	AB 生徒向け自己診断「振り返りシートをきちんと活用している」50・9% (○)
	(2) 授業改善	(2) C 各教科における効果的なアクティブラーニング(AL)の在り方について研究し、授業で実践する。 D ・授業アンケートで高い評価を得ている教員による示範授業を実施する。 ・全教員が互見授業を年2回実施し、評価シートを活用した本人へのフィードバックを行う。 ・各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ(ICT、AL、座学、実技)による研究授業を実施する。	C 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」前年度52%を70%に。 D 生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」89%、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」83%、「進捗や難易度が適切な授業が多い」87%、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」80%(それぞれ前年度)の維持。	C 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」56.2% (○) D 生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」84.2% (△)、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」82.1% (○)、「進捗や難易度が適切な授業が多い」82.9% (△)、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」78.1% (○)
	(3) 講習・補習の組織化	(3) E ・教科・学年・学校全体としての組織的課外講習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。	E 生徒向け自己診断「講習は役立っている」85%超の維持。	E 生徒向け自己診断「講習は役立っている」85.9% (○)
	(4) 自習環境の整備	(4) F ・学習室(図書館を含めて)を整備し校内で自習可能な環境を確保するとともに、さらなる活用に向けた生徒への啓発を行う。	F ・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」前年度77%を80%に。 ・自宅学習時間の前年度上位学年に対する時間の増加。	F ・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」76.4% (○) ・自宅学習時間の前年度上位学年に対する時間：1年生平日±0%休日-0.8%、2年生平日+9%、休日+8%、3年生平日-3%、休日-5% (◎)
2 高い志をばぐみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 将来像を描く力の育成	(1) G 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を拡大して実施する。	G 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」82%、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」86%(それぞれ前年度)の維持。	G 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」79.2% (○)、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」84.3% (○)
	(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立	(2) H ・入試問題研究・入試動向研究を継続する。 ・全国模試の分析を進路指導部で行い統合ICTを活用して情報を共有する。 I ・教科での分析と合わせて業者に頼らない教職員研修を実施して情報の共有化と教員の進学指導能力の向上を図る。	HI ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合を40%以上に。 ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒88%、保護者98%の維持。	HI ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合33.1% (△) ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒88.7% (◎)、保護者97.4% (○)
	(3) 読書活動の推進	(3) J 教科の学習活動に学校推薦図書「泉陽の500冊」を活用するなど、アプローチの仕方を工夫して生徒の意欲の向上を図る。	J 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」前年度49%を60%に。	J 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」47.3% (△)
と情報操作をかな見識としての豊	(1) 協力協働の社会的精神の醸成	(1) K 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。	K 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができていく」前年度63%を70%に。	K 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができていく」66.7% (◎)

府立泉陽高等学校

	<p>L 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。</p> <p>M 実績のない部活動に参加を呼びかけるなど、部活動ごとのボランティア活動を推進する。</p>	<p>L 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」95%の維持。</p> <p>M 部活動1部1つ以上のボランティア活動の実施。</p>	<p>L 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」94.4% (◎)</p> <p>M 部活動1部1つ以上のボランティア活動を実施 (◎)</p>
(2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	<p>(2) N ・各学年2回以上人権HRを実施する。 ・可能な教科・科目で、人権をテーマとした体験学習を実施する。</p>	<p>N 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」前年度74%を80%に。</p>	<p>N 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」70.2% (△)</p>
	<p>O ・「遅刻ゼロ」運動と全校統一の指導を行うことにより不必要な遅刻を限りなく減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。</p>	<p>O ・遅刻総数1150回 ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」前年度88%を90%に。</p>	<p>O ・遅刻総数2409回 (△) ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」93.1% (◎)</p>
	<p>P ・授業でのALに限らず、行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、きちんと人の話を聞くことのできる力、自分の考えを適切に相手に伝えることのできる力の育成に努める。</p>	<p>P 生徒向け自己診断「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」前年度65%を75%に。</p>	<p>P 生徒向け自己診断「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」68.3% (○)</p>